

豆狸の寝言

副会長 三原幸二

最近、青少年の犯罪が頻繁に起こり、社会不安を増大させている。

我々も日ごろ、罪を犯さないまでも、自分のことしか考えない若者たちを見て、不愉快な思いをしている。

ところが先日、なんとも言えないすがすがしい若い人たちに会うことができた。

一人は、地下鉄の車内で出会った青年である。

電車に乗ったとき、空席がひとつあったので座ろうとしたら、タッチの差でほかの人に座られてしまった。

そのとき、「ああ、残念」という顔をしたのかもしれない。

私の前に座っていた青年が、気恥ずかしそうな顔をして立ち上がり、「どうぞ」と言ってくれた。

その青年の顔を見て、私は、なんともいいようのない恥ずかしい気持ちになった。年寄りめいたそぶりを見せた自分をみっともなく感じた。「いやいや、それほど年はとっていないので」と遠慮した。

ところが青年は、「すぐ降りますのでどうぞ」とすすめてくる。

私は、ちょっと困ったが、ここで断わるのも悪い。私が座らないと、この心やさしい青年に気まずい思いをさせることになる。そう思い、座らせてもらった。

青年は、四つ目の駅で降りたが、車内が込んでいたので声をかけることができず、うしろ姿に、ありがとうと心のなかで礼を言った。

もう一人は、百貨店のなかで出会った女性である。

店内は混雑しており、向こうからやってくる若い女性の肩と私の肩がぶつかった。

その瞬間、「すいません。申し訳ありません」と女性がいった。



ぶつかったのは、むしろこちらの方である。

いままでの例からいえば、うさんくさい顔でにらまれるところである。

私は女性のことばに軽い驚きをおぼえたが、それだけで終わらず、このあと何人かのひとにぶつかったが、そのたびに「すみません」と相手のほうから声をかけてくれた。しかも相手はみな若い女性だった。

私は、この二つの出来事があるまでは、いまどきの若者は礼儀知らずで、自分勝手な連中ばかりだと思っていた。が、それは私の偏見であることがよくわかった。

殺伐とした事件が多い今の時代にも、さわやかな青年や礼儀正しい若い女性がたくさんいることを知って、この数日間は、なんともいえない心地よい気分にならせてもらった。

これからも、すばらしい人たちとめぐり合いたいとしみじみ思っている。

(2003年・近ごろの若者)